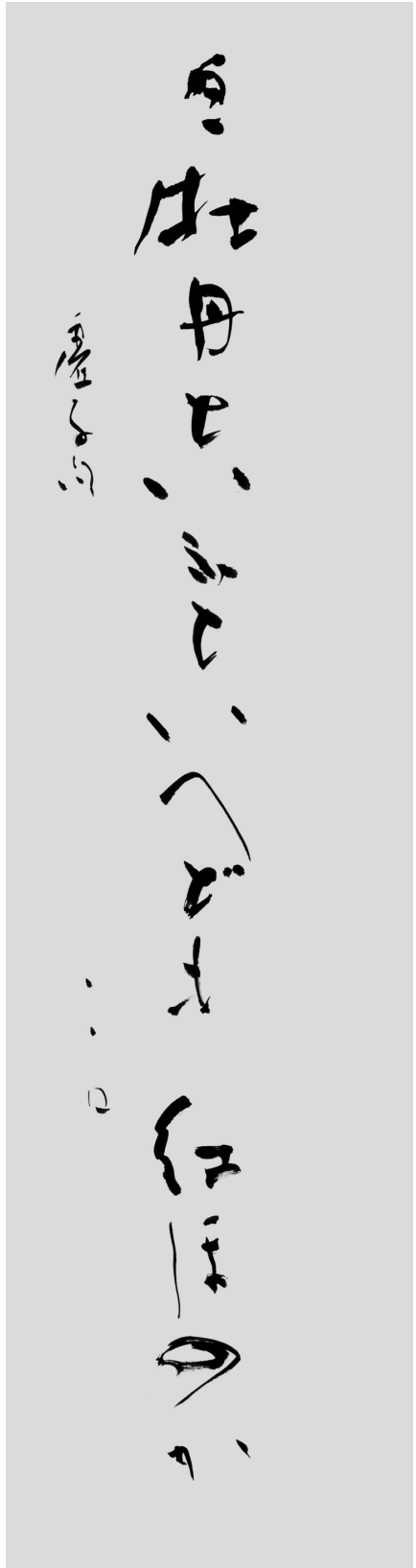


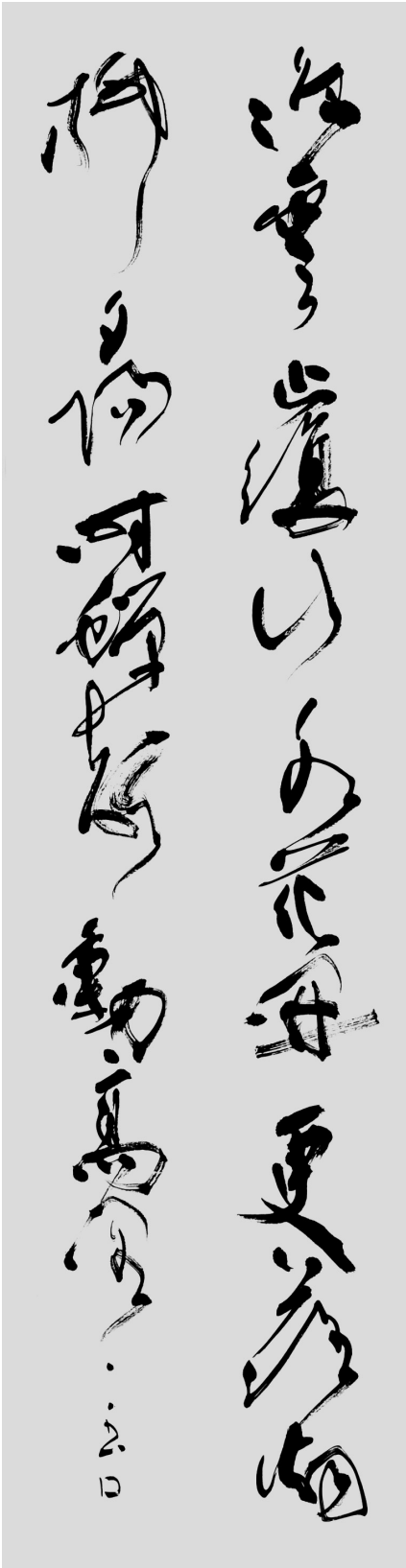
10月25日正午必着

明石春浦先生書



白牡丹といふといへども紅ほのか(高浜虚子)

菅井松雲先生書



涼雲止復行
煙柳夕陽時

水花開更落
蟬聲動高閣

(王漁洋)

涼やかな雲がとどまり、また過ぎてゆく。はすの花が開いて、また落ちる。柳にかすみがかかる夕暮れ、夢うつつに高殿で蟬の声を聞く。

碧雲淡日黄花節
紅樹西風白雁秋

明石幸子書

碧雲淡日黄花節、紅樹西風白雁秋（沈名孫）

青い雲、弱い日ざし、これは重陽九月九日菊花節。紅葉、西風、これは白雁の南に帰る秋。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

蘭在幽林亦自香（劉禹錫）

蘭、幽林に在りて亦た自ら香し。

静かな林間の蘭も自ら香気を放っている。

江送巴南水 山横塞北雲
津亭秋月夜 誰見泣離羣

（王勃）

江は送る巴南の水 山は横たわる塞北の雲
津亭秋月の夜 誰か見ん離羣に泣くを

巴南—蜀の地。塞北—とりでの北。津亭—渡し場の辺にある酒亭。離羣—礼記に離羣索居という語がある。仲間をはずれて散り散りにくらす。

孤雁

（崔塗）

孤雁 塞に帰って尽く 念う 爾 独り何くにか之く

幾行歸塞盡 念爾獨何之

幾行か 塞に帰って尽く 念う 爾 独り何くにか之く

暮雨相呼疾 寒塘欲下遲

暮雨 相呼んで疾く 寒塘 下りんと欲して遅し

渚雲低暗度 關月冷相隨

渚雲 低くして暗かに度り 関月 冷やかに相隨う

未三必逢繪繳一 孤飛自可疑

未だ必ずしも 繪繳に逢わざるも 孤飛 自ら疑う可し

小山田の霧の中道 ふみわけて 人來と見しは 案山子なりけり

（太田垣蓮月）

半紙部規定課題A

10月25日正午必着

嶺 霜
曉 明
松

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

10月25日正午必着

行書

霜明松
嶺曉

隸書

霜明松
嶺曉

明石春浦先生書

草書

霜明松
嶺曉

行草書

霜明松
嶺曉

お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと
帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける
松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い
私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

送三人歸山

石召

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人
霜明松嶺曉
花暗竹房春
亦有棲閑意
何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

相逢うて 惟だ道のみ在り
誰か共に貧なることを知らざらん
帰路 残雨を分かち
舟を停めて 故人に別る
霜は明らかなり 松嶺の曉
花は暗し 竹房の春
亦た棲閑の意有り
何れの年か 身を寄す可き

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

常獨詣衆人疑恠彼人婦者儻能
端政暉赫絕曜或能極醜不可
顯現是以彼人故不將來今當設
計往觀彼婦即各同心密共相
語以酒勸之令其醉卧解取門
排使令五人往至其家開其門戶

常獨詣衆人疑恠彼人婦者儻能／端政暉赫絕曜或能極醜不可／顯現是以彼人故不將來今當設／計往觀彼婦即各同心密共相／語以酒勸之令其醉卧解
取門／排使令五人往至其家開其門戶



往觀彼婦即各同心密共相語以酒



往觀彼婦即

奈良 伝 聖武天皇・賢愚經

古来、聖武天皇（七〇一〜七五六）の筆とされているが定かではないようである。賢者と愚者に関する比喩的な小話69篇を収めた一部13卷からなる経典である。

茶毘紙と呼ばれる香木の粉末をすき込んだ料紙に書かれているが、表面のつぶつぶが、あたかも茶毘に附された骨粉のような感じがするため、信仰的伝説からこのように呼ばれている。

この書は、古筆手鑑の巻頭を飾る名筆として伝えられており、墨量のある重厚で雄渾な筆致で、写経の中でも特に字粒が大きい。端正で気魄に満ちた書きぶりを学びたい。

※古筆手鑑：古人の名跡を切り取って幅に仕立て、帖に貼って鑑賞されるもの。
(春濤)

10月25日正午必着

教育部毛筆



ゆう
遊

せい
説

中学一年

雨宮春聲先生書



じゅく
熟

れん
練

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

写真

しや しん

小学五年

榎戸春龍先生書

展示

てん じ

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

10月25日正午必着



さん
山

りん
林

小学三年

藤田幸春先生書



ち
地

ほう
方

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ほ し 小学一年・幼年



森戸春濤書

お ^{こめ}米 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

空には星がかがや
 き庭では虫が鳴く

小学五年

月明かりの中草の
 葉がきらりと光る

小学六年

雲の切れ間に現われ
 た十五夜のまるい月

中学

自己の力とは他人につ
 くす時こそ試される

一般(級位)

一すぢの糸の白雪 富士の嶺に残るがかなし 水無月の天(若山牧水)

ふじの嶺のふもとに
 水無月の天

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

き	あ
い	か
ろ	い
い	り
ば	ん
な	ご
な	

幼年

虫	み
の	み
こ	を
え	す
を	ま
き	し
く	て

小学一年

カ	野
し	さ
ー	い
を	を
作	き
る	つ
	て

小学二年

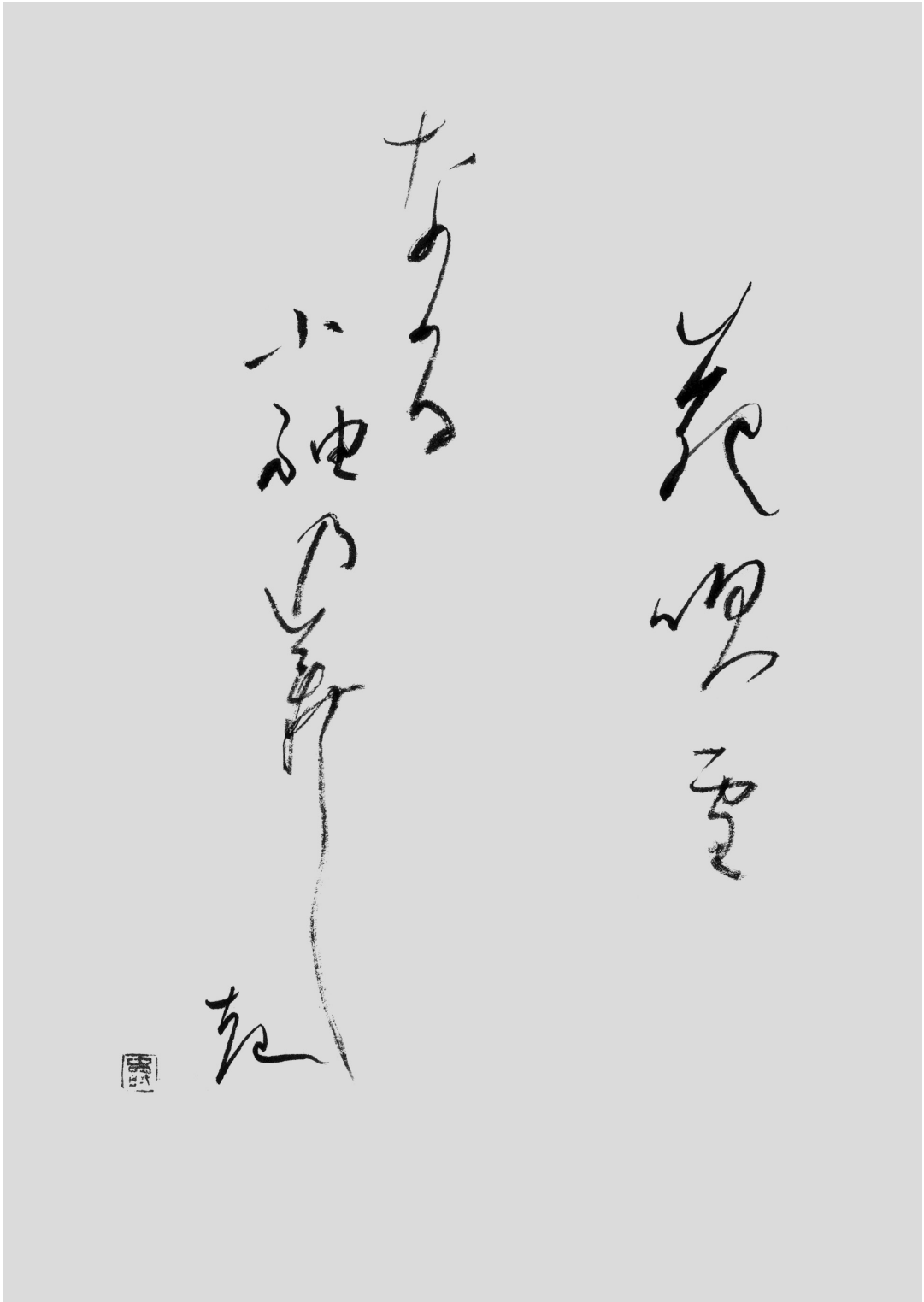
や	一
し	日
が	中
き	
こ	祭
え	り
る	ば

小学三年

も	秋
み	と
じ	い
を	う
連	と
想	美
す	し
る	い

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



花吹雪 ながる小袖の 美しき 乾 (竹久夢二)

岩本景楓先生書